

### 編輯室の内外

昨三月號刊行に際しては皇國創業の鴻績を祝する爲めに紀元節を守り、今は皇祖祭を迎へんとしてつづさに皇祖の偉功を敬慕し奉りて編輯に従ふたのである、時恰かも櫻花の季節に當る、櫻花を禮讚するの詩歌少からず而かも其の散り易きを以て日本武士の氣魂に較ぶるの習あり、吾曹敢て之を贊するに躊躇するものである、彼の狂喜して花下老若男女の嬉遊する祭禮の夫れの如く毫も自然の高趣に接して所謂洒然の氣を養ふものなきを悲しむの外ない思がする。遊ぶべき時に遊ぶ事は咎むべきにあらざれど敬虔の心構を以て花を樂しむるれ心ある者の意を用ゆる所ならずや。

明治元年三月十四日五箇條の御誓文を宣布あらせられ賜ふて七十年。林首相は聖旨を奉體して時難を克服せんと其の決意を放送せられ、衆議院は聖旨格循の決議を爲し、朝野を擧げて積極的な建設的な革新的な明治維新の國是を奉戴する所があつた。五十年目にも六十年目にも過去にて於て一度も視ることのなかつた未曾有の事で其の意義深きを感じざるを得ない、而かも林首相と云ひ衆議院と云ひ決して一時の意思表示に止まらざるべきを信ずる、國民亦深く此處に思を致さなければならぬ。

佐藤外相の外交に關する意見の發表は其

の用語に於て多少不備があつても一部フアツシズム者流を除いては此外相の言を聞きて國民一般がホット一息した感をもつたのは事實である、何がそうさせたのか。

尨大なる十二年度の二十八億餘萬圓豫算案は多少の迂餘曲折があつたが前内閣三十億圓の超尨大三十億圓豫算案との比較心理や國防の必至的形勢や林内閣の本格的施政への期待やを胸中に藏せるの結果、第七十議會を通過した。之を協賛した議員は其の責任を負ふべく、林内閣は更らに大責任を負担したのである。國民への將來の巨大な負擔、生活を脅かさるるが如き増税まで犠牲としたる豫算の實行に關しては苟くも不急な事業や放漫なる經費などは之を嚴戒して事を處すべく殊に此危機に頻せる時局に於て吾曹は一段と軍部各員の忠誠なるに待つ事の大なるを思ふ。之れ備に軍部各員に信頼する所の大なるものあるに基くものである。

國民健康保險法は、社會的法制として重要な法律である、之が實施に關しては慎重なる心構と精緻なる觀察とを以て事に當らなければならぬ、従つて形式的な空虛的な處理は禁物である否な絶對禁物と謂はなければならぬ、吾輩は切に當局者の戒心を要求する。

世の知識階級者と有閑夫人的容姿者とに對し禮儀を尊重せよと野に叫ぶ聲が聞ゆ

る、野人禮にならずとか衣食至つて禮節を知るると云ふのは何等の關係はない、茲に禮儀とは自尊を抑損することである、我利を没却することである、我儘を放棄することである、高慢を除去することである、虚偽を絶無たらしむることである、共存共榮を確認することである、恭謙よく持することである。思ひ此に至らざるべき社會は殆いかなである。新らしい社會に伸び行くときに理想なく把握せる主義なく高遠なる希望なくして奮に奮いものへの固着、傳統への愛着に捕へらるることは其の社會を危機に陥らしむるものではなからうか(洗)。

定價 一部 五十錢  
一ヶ年分 金六圓

發行所 東京市麴町區外櫻田町一番地内務省内  
社団法人 道路改良會  
電話銀座(57)四二七

發行兼 東京市世田ヶ谷區北澤五丁目七五二  
編輯者 小島 效  
印刷所 東京市小石川區諏訪町五六  
常磐印刷所  
印刷者 奈良直一